

## シアター オフ ザマインド

THEATER OF THE MIND by BY BARRIE RICHARDSON

**メンタルマジシャンのバイブル**

**53の驚くべきメンタル・ルーティンを収録**

(訳注：近代メンタリズムが、ANNEMANN の名著「PRACTICAL MENTAL MAGIC」によって幕を開けたのが約80年前となりますが、60年前には CORINDA の「13 STEPS TO MENTALISM」があり、近代化が加速されました。

この「THEATER OF THE MIND」はそれらに劣らないメンタリズムの名著です。ANNEMANN や CORINDA の本にルーツを持つエフェクトもあります。

25年前、この本の初版発刊当時は、著者 BARRIE RICHARDSON (1934~2015) が50年にわたり実際に演じて来たエフェクトが50も惜しげもなく解説され、それぞれが良く考えられており、大変好評であった本です。今では、そのやり方の多くが知られていますが、逆に言えば、それだけ本書が読まれて実践され応用されたという事でしょう。

本書のほとんどのエフェクトが、秘密を何らかのストーリー性のあるプレゼンテーションで覆っているのが特徴で、解説もセリフなどプレゼンテーションに重点を置いています。

著者の「マジックはドラマである」という感覚が伝わってくると共に、「メンタルマジックはプレゼンテーションがすべて」ということを再認識させてくれます。

難しいスライトは有りませんが、むしろセリフ、大胆さ、タイミング等が肝心で、その意味ではそれなりの練習をしなければ出来ないものが多いです。

また、なかには特別な道具がないと出来ないものもありますが、その発想はすばらしく、たとえ出来なくともそのやり方を知るだけでも勉強になり、新しいマジック創作への刺激となるでしょう(なお、この道具の簡易版は日本でも作れそうですー後述)。

本書のエフェクトには既に知っているものやかなり難しいものもありますが、どれも著者が実際に客の前で長年演じて来たものだけによく考えられており、そのやり方は大いに参考になります。

メンタリストとして一度は読んでおくべきメンタルマジックの古典的名著だと思しますので、じっくりと味わってください)

## はじめに（抄訳）

もし私の父 TYRRELL RICHARDSON が、6歳の私に粘り強く1つのマジックの技法「FRENCH DROP」を教えてくれなければ、私の人生はもっと退屈なものだったでしょう。私は覚えた技で1枚のコインを消して妹の JESSICA と LAUREL を驚かせた時の喜びに取りつかれたのです。そして、今もそれは続いています。

私は、大学の教壇に40年間経ちましたが、フリータイムにはマジックとメンタリズムという2つに情熱を捧げました。

私のこれらアートのパフォーマンスは次第に出来上がってきたものです。1970年代に「THE MAGIC OF YOUR MIND」というマインドリーディングアクトを作り、これは評判で勤労感謝週間や NEW YEAR'S EVE などをはじめ数多く演じました。

そのころ私には育ち盛りの子供が4人いたので、お金を必要としていました。私は暇があればシカゴを含む半径200マイルの範囲をバイクで走ってマジックで稼いでいました。夜のパーティー、教会のバザー、結婚式など様々な会場で演じることとなり、私はどんな演技環境でも対応出来るようにして行きました。中でも、ホテルでの食事後のショーが多かったので、音響や照明などの大切さも勉強しました。ただ、他のマジシャン達が、演技の前に照明等について綿密に打ち合わせをしていたのに対し、私は忙しすぎたのか、面倒くさがり屋なのか、そうした打ち合わせはあまりせず、むしろ自分のプログラムを会場に合わせて調整していました。

そうした会場は本当にさまざまで、企業のピクニックや田舎町のカントリークラブ、頭の上で輝くミラーボールが常に回転している部屋、ピッツバーグの川船等々でした。時には販促会では、スキートの板を並べた上や自動車の屋根に立っての演技もありました。

1970年代後半になると、別に宣伝をしている訳でもないのに HOPE COLLEGE の私の元へ出演依頼が来るようになりました。そこで分かったのは、人々は「TIME」誌を暗記したり、人の心を読むだけの出し物を求めている訳ではなく、「LEMON TRICK」も出来る人を求めているという事でした。人々は不思議さと同時に楽しみたい、面白くすごしたいと思っているのです。そこで私はプログラムを変更して、マジックとマインドデモンストレーションを行う「エンターテイナー」として演じることにしました。そして、本書にもある「MOLECULES IN MOTION」や「AIRPLANE CARDS」、「PENCIL PUSHER」なども実際に演じてきました。これらのマジックは観客を巻き込むもので、ESP 現象ではないのですが、観客達はマジックショップでは起こらないようなものを見たと感じるのです。

1980年になってから、私はルイジアナ州の CENTENARY COLLEGE に移動しました。この頃から私は演技にストーリーや詩などを取り入れるようになり、私の演技は「エンターテインメント」から少し違うものになったような気がします。私は楽しくも人々を鼓舞するようなパフォーマーであり、またスピーカーとして評価が上がって行き、出演料も上がって行きました。企業の販売会議やマネジメント会議での講演や、コンベンションでの基調講演、ワークショップなども担当するようになりました。

私のマジックキャリアが新しい段階に入り、もはや50分のショーをするために何千マイルも移動することはしなくなりました。もはやお金は主たるモチベーションではなくなりました。この本に

ある多くのエフェクトを使って、観客にとっても何か意味のあるメッセージを伝えるようなことをしたいと思うようになったのです。

マジックは私の人生に3つの影響を与えました。

まずマジックは60年近くにわたって、私の知的且つ創造的な思考を鍛えてくれました。子供の頃、よく真夜中に目がさめて分からないマジックのことなど考えましたが、マジックの解決法や応用法に頭を使いました。これは今も変わりません。

2つ目にはマジックは、これまでに多くの人々の前で演技し、コミュニケーションを持つことを可能にしてくれました。そうすることはまた、私の家族の経済的セキュリティを強化して、楽しい人生を送ることを可能にしてくれたのです。

3つ目は、マジックは親友と知り合う道を作ってくれました。私の男性の友人達の多くはマジックの分野で知り合い、親しくなった人達です。

こうした私のマジックについて、28年間にわたって書き溜めてきたのがこの本であり、私が主なる興味をひかれるメンタリズムの分野に属するものも多いです。しかしながらまた、私が長年演じて来た、他のメンタリストのプログラムでは見られないようなものも含めてあります。とは言ってもそうした私のトリックもまた、やはりどこかに「メンタル的な趣き」を持っています。

この本の構想は、1991年に HERETIC PRESS の STEPHEN MINCH が、過去に「PABULAR」誌などに発表して来た私のマジックをまとめて本にしたいと打診してきたときから始まります。私はイギリスの2人の友人、ERIC MASON と FRED ROBINSON の勧めで彼らの雑誌「PABULAR」誌に投稿していました。また、新しいマジックを考えるうえで PATRICK PAGE もよく指導してくれましたし、DAVID BERGLAS には大きな刺激を受けました。

私は北アメリカのマジシャン達には多くの影響を受けています。GENE GRANT、LARRY BECKER、MAX MAVEN、JON RACHERBAUER 等々です。JACK DEAN はいつもマジックの歴史に係る情報を提供してくれ、TIM CONOVER は私のプレゼンテーションを精緻化するのに多大の時間を割いてくれました。

この本はチームプロジェクトと言っても良いもので、「PABULAR」誌や「CLUB71」誌の編集者も務めた WALTER LEES は、私の「マジックはドラマである」というセンスを失わずに見事な編集作業をしてくれました。彼の努力なしではこの本は生まれなかったでしょう。また、弁護士でありカードマンである STEPHEN HOBBS は原稿すべてに目を通してくれました。彼の指摘により加筆訂正した部分もあります。最後に STEPHEN MINCH です。彼も私のエフェクトすべてを順序だてて点検し、矛盾点や読者に分かり難い点などを指摘してくれました。「A STRING AND TWO BORROWED RINGS」などは、現在の解説の水準まで来るのに多くの議論を要しました。彼は完璧主義者であり、私はむしろ対極の人間です。この本の解説の正確性や明確さは正に彼のおかげです。また彼は知識も豊富で、私が新しいアイデアだと言って彼に見せると、「ああ、良いアイデアだね。たしか DAI VERNON が40年前に発表しているが」などと言うのです。

STEPHAN MINCH は私の友人になってくれましたが、教養ある紳士であり、また強い意思とモラルの持ち主です。そのような人物に本書の誕生を託せて、私はラッキーでした。

パソコンへの原稿の打ち込みなどを担当してくれた CHARLOTTE TURNLEY とその助手の

JEREMIAH STEVENS にも感謝します。

成長した私の4人の子供達、CRAIG、JAN、PAMELA、DAVID はいつも私を元気づけてくれ、こんな父親にも嫌な顔をせずに来てくれました。CRAIG と DAVID は、30年にわたって鋭い洞察力と彼らの統計的、機械的な知識によって、私を助けてくれました。

最後に、私の妻と父に感謝を。妻 JANIE は常に私の熱心な援護者であり、また私の知る限りもっともマジカルな女性です。

## CHAPTER 1

### CLASSICS (古典)

メンタリズムやマジックにおいて「クラシック」と言われるものは何でしょうか？私は正式な定義は知りませんが、「それが生まれた時と変わらずに今も演じられ、これから先も演じられて人々をだましていくもの」だと思います。カップ&ボールとリンキングリングはその2つの例と言えます。

この章には6つのクラシックエフェクトがありますが、どれも不思議であり、またメンタル的な要素も持っています。それはパーラーや企業向けショーの私の演技で使われており、それらは必ず1つか2つは含まれています。

これらのエフェクトは皆、古いものなので何でこの本に含めたのかと思われる方もいるかもしれませんが、私はそれぞれの伝統的やり方に何らかの「ひねり」を加えています。それと私が考えたプレゼンテーションやストーリーが、エンターテインメントとしての価値を増したと言ってくれる人達もいます。

これらの6つのエフェクトにはいくつか共通点があります。

1. あまりその場での準備が要らないこと。ケースから取り出してすぐ行えます。
2. 15人くらいから100人規模までの観客の前で演じられます。
3. 他のものと違って、これらは少々見にくくてもストーリーがそれを補完して、観客が理解し易いものになっています。
4. それぞれのクラシックエフェクトは、ちょっとしたお芝居のような感じで演じられ、観客の興味を引きます。デモンストレーションとストーリーが良くマッチして効果を盛り上げます。
5. どれも怪しげな道具を使ったり、怪しげな動作はしません。これらの現象は、「ただ起きる」のです。
6. これらのエフェクトは単独で演じており、オープナーやクロージングで使えます。
7. 私はこれらを何百回も演じて来ましたが、内容が明解で観客の反応も良く、演じていて飽きることはありません。

私のこれらの演技はすぐに出来上がったものではなく、何回もの演技の過程で少しずつ改善されてきたものです。どれも時間をかけて出来てきたもので、少なくとも私にはシステムチックな創造力の発揮は有りませんでした。反対から考えてみたり、古いやり方を組み合わせてみたり、不要と思うものを省いたりして練り上げてきたのです。インスピレーションはどこからもやってきます。

これらの6つのエフェクトは私の古い友人達であり、あなたに紹介出来るのを嬉しく思います。

(訳注：RICHARDSON は、これらのエフェクトは「練り上げてきたもの」だと言っていますが、それだけにこれらのエフェクトは「読んだらすぐ出来る」ものではありません。超絶技法などは使いませんが、タイミングや客とのやり取りなど、それぞれになんらかの練習が必要です。ここにある6つのエフェクトは皆タイプの異なるものであり、まずはどれかにチャレンジしてみてもいいでしょうか?)

## OVATION POSITION (「大喝采」の準備)

液体の入ったグラスの出現は、いつも人気のあるエフェクトです。20年くらい前に PAT PAGE が私に見せてくれたのは、上着をぬぐと手に液体の入ったグラスが持たれているというものでしたが、あのグラスがどこから現れたのか分かりませんでした。後に ERIC MASON は細長いワインボトルの出現を見せてくれました。

この17年間、オープナーにこのグラスの出現を使っています。メンタリストとしては奇妙な選択に見えるかもしれませんが、DANNINGER、KRESKIN、RICHARD OSTERLIND なども、彼らのメンタルアクトの息抜きとして使っています。私は30人以下のグループから1000人以上の観客に至るまでこれを使いますが、メンタルアクトの始めに観客の興味や注意を引き付けるのに、これ以上のエフェクトはありません。さらに良いことには、簡単な道具でほぼ即席で出来るのです。

### (現象とプレゼンテーション)

司会者に紹介されたら、少しふざけた調子でこう言います：

「私はあることを告白しなければなりません。私のこの美しい肌は敏感で傷つきやすいのですが、それ以上に傷つきやすいのが私の心です。皆さんにはもう傷つけられました・・・拍手がとても謙虚でした。私はいつも大喝采になれているのですよ」

何人かの客があらためて拍手をするので、それを抑えます：

「ああ、もう良いです。私は同情されたりしたくないので。お見かけしたところ、皆さんエンジニアのようですが・・・」

ここはその時の客層に合わせて変えます。特に職業の共通点が無ければ、「皆さんニュー Yorker ですので・・・」などと地域の共通性を使っても良いです。

「きっと、もっと高度な演技に大きな拍手をする方達なのでしょうね。こうしてただ現れただけではダメなのですね・・・それと今気づいたのですが、拍手の仕方を知らない方も多いようですね」と言うと、少し笑いが取れます。

「特別にやり方を教えましょう！両手をこの位置にしてください」

パフォーマーは両手を30cmくらい離して立てて、拍手の態勢を作ります。

「そして、両手を快活に熱心にたたき合わせるのです。皆さんが全員で合わせてやってくれることで「OVATION 大喝采」となるのです・・・では皆さん、この態勢に両手を持って行ってください。さあ、手をたたきましょう。素晴らしい！では、次に備えてリラックスしてください。今度は私が皆さんから本当の大喝采をもらいたいと思うので。

私が何をやるかを教えましょう。アルファベットを言うのです・・・(間を取ります)・・・後ろからです。私が最後の文字に行き着いたら大きな拍手をお願いします・・・どうも皆さん、あまり感銘を受けて無いようですね。分かりました。それでは、アルファベットを逆に言いながら、上着を脱いで見せましょう」

両袖をなで、上着の前を開けて中を見せたら閉じます。

「皆さんはきっと大きな拍手をするでしょう。家に帰ったら話してください。BARRIE RICHARDSON が2つのことを同時にやったと！アルファベットを反対から言いながら、上着を脱ぐのです。驚くべきことではないですか？」

観客は笑い始め、「このパフォーマーは何をしたいのか？」と思うでしょう。大きな真剣な声で、「拍手喝采の準備は良いですか？さあ、皆さん、「大喝采」の準備をしてください」と言って、両手を体の前で「OVATION POSITION」にします。

観客の準備が出来たら、パフォーマーは目を閉じて、「Z、Y、X、W、U、T・・・」と言い始めます。アルファベットを考える様子をしながら、まず左腕を上着の左袖から抜いて、上着を右肩にかかった状態にします。「・・・O、N、M、L、K・・・」と言いながら、右腕を右袖から抜きますが、何かが引っかかった感じで右袖は裏返しにされて行きます。同時に目を開けて「C、B、A！」と最後の文字を言って、観客の方を見ます。

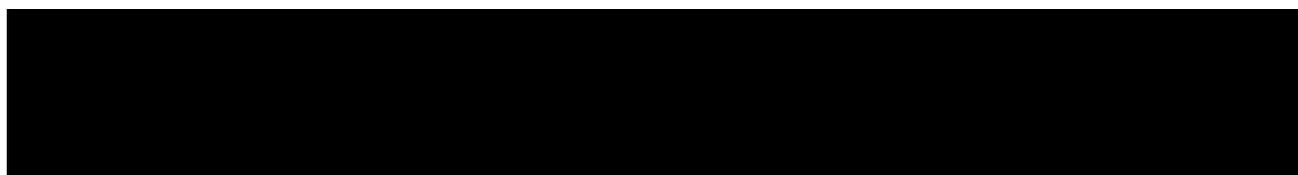
同時にまた右手を右袖から抜き出すと、その手には水の入ったグラスが持たれているのです。観客は驚き、パフォーマーがうなずくと大きな拍手をするでしょう。

「そうです。それが「大喝采」です！」と言いながらグラスを高くかければ、拍手はさらに大きくなるでしょう。

## (やり方)

これは PAT PAGE のやり方です。ほとんどのどんなグラスでも使えますが、背の高い物の方が印象的です。私は一時は背の高いアイスティークラスを使っていましたが、現在ではテニスボールを入れておくプラスチック製のチューブに底を取り付けて使っています。プラスチック製は長さの調節も効き、軽く、耐久性もあります。

(訳注：現在では、強化プラスチック製の見た目の良いグラスがいろいろあるので便利です)



7頁図1から8頁図4までがグラスプロダクションのメカニズムです。まず図1のように袖から左手を抜きますが、上着は右肩から垂れるようになります。これは図2のようにズボンのポケットか

らグラスを持って来るのに良いカバーを提供します。

左手で右肩にかかった上着を、右腕に沿って下に引きます。そうすると、右袖はまくり上げられた状態になって行き、右腕が抜けて来ます（8頁図3）。

右手に水の入ったグラスが持たれているのです（図4）。

—以下省略—

## ONE IN A HALF MILLION (50万分の1)

私はまったく何の仕掛けもない電話帳から自由に選ばれた誰かの電話番号を予言したいと思っていました。また、この不可能に見える予言をすっきりとしたやり方で行いたいとも思っていました。いろいろと試行錯誤がありましたが、ある日曜日の朝に教会の会報をもてあそんでいる時に、簡単なやり方を思いついたのです。

それ以来、これは私の最も強力なエフェクトの1つとなり、特別な機会にだけ演じていました。現在ではアンコールやクローサーとしてより演じる機会が増えました。このエフェクトは最初、

「PABULAR」誌1977年12月号に発表しましたが、詳しいプレゼンテーションまでは説明しませんでしたし、それ以来やり方も発展しています。

もし私が、私の演技生活の最後に5つのエフェクトだけしか出来ないとしたら、このエフェクトは間違いなくその中に入るでしょう。

やり方は古いものですが、知識豊富なマジシャンさえだまされるようなプレゼンテーションによってうまく隠されています。すべてはまったくフェアで、自然に見えます。そして実際にそうです、ほとんどですが・・・。

## (現象とプレゼンテーション)

パフォーマーは1冊の大きな地方版個人電話帳を取り出し、客に渡します。それは何のおかしなところもない電話帳です。演技会場の周囲地区の電話帳があれば、それも使えます。

「これから私がやろうとしているのは、とても繊細な実験です。そして、相手の人の知的水準が高ければ高いほど、その人がこの実験を不思議に思い興味を引かれることが分かっているのです。これから我々は次の疑問について考えます。「あることが起きること」を事前に知ることが出来るでしょうか？私は予言そのものを言っているのではなく、予言者の力のことを言っているのです。私は個人的には、予言者たちは特別な力を持っており、幅広く歴史に目を通すことが出来てそこで彼らが見たものを私達に語るのだと思っています。旧約聖書の予言者もそうでしたし、今世紀では MARTIN LUTHER KING もそうだったと思っています。

ただ、ここでやろうとしているのは、それほど規模雄大なことではありません。私は、2002年4月10日のAT&T(訳注:アメリカ電信電話会社)の株価はいくらかといったような、もっと個別のことに興味があるのです。ここではさらに分かり易く、誰かが自由に選ぶことになる個人の電話番号を私が事前に知ることが出来るかという実験をするつもりなのです」

ここで、パフォーマーは巻いた紙を取り出して、観客に見える所に置いておきます。

「心を開いて、私と一緒に先ほどの問題の答えを見つけたいと思う方はいますか？」

2人の女性客をステージにあげますが、最初に細かい数字が見えることを確認し、眼鏡がいるならかけてもらいます。見えない人には他の人と交代してもらいますが、客の気持ちの負担にならないように軽い会話調で確認してください。

電話帳をしらべてもらったら、誰か知った人の項目を見てもらいます。

「内容に間違いはないですか。ではこの電話帳を使いましょう。この電話帳には1000頁以上あり、各ページには500の名前が書いてあります。つまり、50万人もの人が登録されているのです。見ていただいたように、すべての番号は異なっています」

パフォーマーは電話帳をテーブルに置いて離れます。

「ここで2つの数字が必要なのですが、そこの方、1桁の数字を1つ言ってくれますか?…8ですね。では次の方、もう1つ数字を教えてください・・・7ですか。

それでは、870頁にするか780頁にするかを決めてください、そこの方がいいがでしょう?・・・780頁ですね」

1人の女性客に向かい、「では、電話帳を取って780頁を開けてください・・・すべての電話番号は異なっていますね？」

さて、先へ進む前に、780頁で本当に良いですか?781頁や782頁でなくても良いですか?・・・785頁!分かりました。では785頁を開けて、すべての電話番号が異なっていることを確認してください。

何人かのお客様にご協力いただいて、フェアに頁数が決まりました。このページの中から1つの番号を選ぶのですが、こちらの2人の方に手伝ってもらいます」

と言って、パフォーマーは2人の女性客の間に立ちます。

「ジャネット、ここに紙とペンがあるので記録係になってもらいます。ヘレン、あなたには番号を選んでもらいます。(右に立っているヘレンに)では、人差し指先をその頁の最初の番号の上に置いてください。そして目を閉じたらゆっくりと指を動かしてください。そこのお客様、どこかでストップを言って彼女の動きを止めてください。

(「ストップ」)今、彼女の指は1つの番号の上にあります、そこで良いでしょうか?もう少し上か下に動かしますか?良いですか?」

客達が電話番号の選択に満足したら、「ジャネット、私はヘレンに近づきましたか?」と聞き、ヘレンが「いいえ」と答えます。ヘレンに目を開けて、指で押さえている番号を読ませます。

「865-4907」

「ジャネット、その電話番号を確認して、あなたの紙に記録しておいてくれますか?この番号は、もし1人前で指が止まっていたら、違う番号でした。1人後でも違います。では、選ばれた番号をもう一度一緒に言いましょ: 865-4907。

さて、会場の皆さんには両手をこんな風にして欲しいのです」

両手を拍手する時のポーズにします。つまり、立てて30cm位離しておきます。

「会場が次第に熱気に包まれてきたので、少し気流を動かして熱気を冷ましましょう。両手を合わせてまた離してください。風が起きましたね。もう少し早くしましょか・・もっと速く、です。

さあ、(女性客に向かって)お二人にはお手伝い有難うございました。皆さんの拍手の中、席にお帰りください」

これで観客は笑い、2人に盛大な拍手を送るでしょう。

「さて、ある事が起きる前にそれを知ることは出来るでしょうか?アインシュタインは出来ると考えていました。彼は時間は川の流れのようであり、ある地点に座っているとある物が上流から流れて来るのが見えて、いつか目の前、現在を通り過ぎて行くというわけです。

AT&Tの将来の株価やダービーの結果は、あらかじめ知ることが出来るのでしょうか?同じように、今日50万人の中から1つだけ選ばれた電話番号は、あらかじめ知ることが出来たのでしょうか?皆さんはどう思いますか?

実は私は、今日ここに来る前に紙に、ある7桁の数字を書いてきました」

テーブルから巻いた紙を取り上げて、左を向いて両手の間に広げます。左側の観客にしか書いてあることが見えませんが、「おー!」といった声があがり、拍手も起きます。正面を向いて紙を見せ、続いて右の観客にも紙を見せると、拍手の輪が広がります。最後は正面を向いて両手間に紙を広げて高く持ち、さらなる拍手を集めます。

20年ほど前にデトロイトの企業ショーでこのエフェクトをやりましたが、KARRELL FOXが今説明した紙の見せ方をアドバイスしてくれました。わずかなことで、観客の反応に大きな違いがあることを教えてくれたのです。彼には今も感謝しています。

—以下省略—

日本語説明書©2023 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

**販売: (有) フェザータッチ MAGIC**  
[www.FTMagic.JP](http://www.FTMagic.JP)



**フェイスブック:** [www.facebook.com/ftmagic](http://www.facebook.com/ftmagic)

(新製品情報、特別セール情報等はこちらでチェック)

**インスタグラム:** [www.instagram.com/ftmagic0000/](http://www.instagram.com/ftmagic0000/)

**Twitter:** <https://twitter.com/FTMagic>



メール: [FT@FTMagic.JP](mailto:FT@FTMagic.JP)